

令和5年12月21日（木）

専攻科集会講話

こんにちは。

令和5年も残すところ10日となりました。本当にいろいろなことがありました。皆さんにとってはどんな年でしたか？過去のことにばかりに拘ってはいは、先に進むことはできませんが、未来を自分が望むより良いものにするために、今の自分の有りよう（自分がしてきたこと）に向き合うことが必要だと私は考えます。今年の自分を見つめ直す時間を是非作ってください。

さて、医療という観点から今年、印象に残ったことを話します。

イスラエル、ガザ地区での紛争。多くの医療施設が攻撃を受けました。ライフラインが被害を受け、保育器から出された新生児の映像には衝撃を受けました。さらに、現地で医療活動に当たっていた国境なき医師団の女性医師のインタビュー映像。自分の死も覚悟したという過酷な経験をしながらも、機会があれば現地に戻りたいと語り、その理由を尋ねられると、特別な理由はなく、自分が救える命を救いたいのだという言葉が印象的でした。見る映像すべてから、また、現地で医療に従事している人々の表情から、目の前の命を救いたいという強い思いが伝わってきました。

皆さんがこれから進もうとする医療の現場はある意味、戦場と言えるのかもしれません。命と向き合う場面に直面することになるからです。その時、あなたには何ができるのでしょうか？

その答えはおそらく、みなさんそれぞれの意識の中に潜んでいるのだと思います。

みなさんは看護の専門的な内容を学習しています。ドクターや看護科の教員からの知識等をインプットするわけです。自分では理解しているつもりが、実際に患者さんを前にすると、その知識をどうやって活用すればいいか分からないという時もあるかもしれません。自分の頭の中を整理して、アウトプットしてみなければ、役に立つ内容かどうかは分からない。自分から進んでそれを確認しようとする姿勢が必要となるはずです。指示を待つのではなく、自ら行動すること。それを可能にするには、常に意識することが必要だと考えます。臨地実習は大変だと思うのではなく、厳しい指導は自分の知識を役立つものにブラッシュアップする機会だと捉え、前向きに取り組むこと。その姿勢があなたに自信をもたらしてくれます。そして、自分にできることが見えてくるのだと思います。

その場にとどまるのではなく、自分の未来を見据えて、歩み続けようと意識する人であってほしいとい願っています。

専2のみなさんにとっては、長きにわたった臨地実習が終わりましたが、「あ～、終わった、終わった」ではなく、できたこと、できなかったことを整理し、次に繋げようと努力してください。それがあなた方の成長へと繋がり、2月11日の看護師国家試験へと導いてくれるはずです。「何とかなる。ではなく、何とかする！」の気持ちで頑張りましょう！

専1のみなさんは、年が明けるといよいよ臨地実習が始まります。実習に臨む心構えと自分なりの目標をしっかりと定めてください。そして、その目標に向け努力を積み重ねてくれる

ことを期待しています。

これからもしっかりと看護の道を歩み続けるみなさんに、今、考えてもらいたいことを伝えました。来るべき2024年がみなさんにとって素晴らしい年となりますように！

以上で終わります。



令和5年12月22日（金）

2学期終業式 講話

おはようございます。

令和5年、2023 年も今日を含めて、残すところ10日となりました。本当にいろいろなことがありました。皆さんにとってはどんな年でしたか？過去のことにばかりに拘ってはいは、先に進むことはできませんが、未来を自分が望むより良いものにするために、今の自分の有りよう（自分がしてきたこと）に向き合うことが必要だと私は考えます。短い時間で構いません、今年の自分を見つめ直す時間を是非作ってください。

さて、先日、防災訓練を実施しましたが、その時、今年9月に開催された講演会のことが頭を過りました。それは、2011 年に発生した東日本大震災の話でした。震災で自らも小学生の娘さんを亡くした宮城県女川第一中学校元教師の佐藤敏郎さんが講師を務められました。防災のことだけではなく、私たちが日々をどのように過ごせばいいのかを示してくれるような内容でした。講演の内容は、香川県高P連のホームページに掲載されているので是非見てください。佐藤さんは、身内を亡くし、避難所生活を強いられている子どもたちに国語の授業で素直な気持ちを五七五の俳句で表現してもらったそうです。講演では、『窓ぎわで 見えてくるのは 未来の町』『夢だけは 壊せなかった 大震災』といった俳句と共に、子どもたちには未来が見えていた。」ということや、「その後、当時子どもたちと一緒に活動していると、気づくと必ず未来の話になるんです。必ず希望を語る。あの日に向き合ったその先には必ず未来を見つける、100%です、」ということが語られました。

「命、未来、夢、希望」…今年を振り返って私が頭に思い浮かべる言葉です。

ロシアによるウクライナ侵攻はまだ継続中です。大勢の犠牲者を生んでいるイスラエル、ガザ地区での紛争。修学旅行先の沖縄で耳にした「ぬちどう たから(命こそ宝)」。

振り返れば、人間の愚かさを象徴するような出来事が浮かんできます。確かに人間には愚かな面があるでしょう。しかし、同時に、先ほど話したように被災した子どもたちが未来を見据えて、言葉を選びながら思いを表現したように「命、未来、夢、希望」を胸に助け合ったり、寄り添い合ったりしながら、前を見て歩んで行くことができる素晴らしさ、すごさを兼ね備えているのが人間だと改めて考えさせられました。

普段の生活、学校生活や家庭生活においても良いことばかりではなく、目を背けたくなるような悪いことも起こります。良くも悪くも、どんなことが起ころうとも、時間は関係なく進んで行きます。ただ、その中で自分一人が諦めて、負(マイナス)のまま、その場に留まっていると置き去りになってしまいます。あの子どもたちのように、未来を見据え、自分の言葉で自分の思いを語ることで前に進んで行きましょう！言葉の力って、思っている以上に力を持っているものです。その先に待っている未来や希望のために自分の思いを言葉に変えて、進んでいきましょう！

今年を振り返って、私が考えていること、みなさんに伝えて、みなさん一人ひとりに考えてもらいたいことを話しました。是非、じっくりと考えてみてください。

クリスマス、そして、正月。時間は絶えず流れていきます。来るべき2024年がみなさんにとって、素晴らしい年となりますように！

1月9日の始業式には、元気で会いましょう！

以上で終わります。